

東伊豆町

地形概況

天城火山東南部の山地が広がる地域を、大川川、白田川・堰口川が開析を進めた。白田川上流や稲取西方には地すべり性崩壊地がある。大川・奈良本・白田・稲取など侵食にともなう丘陵性緩斜面が形成されたが、海食崖の発達も著しい。

地質概況

安山岩質溶岩の天城火山や遠笠山火山と浅間山溶岩の地域が広い。市街地は稲取泥流が流下し安山岩類の砂礫を堆積したところである。白田川にそう谷には、崖錐性堆積物や変質岩の分布地域も広く、湯ヶ島層群も露出する。奈良本には玄武岩質の岩滓の分布もみられる。

気象概況

年平均気温は 15.2°C、年平均降水量が 2,420mm(稲取)と県下でも平均値に近い気象である。気温は冬季も低下せず、夏季も高くないで降水比も小さい。年平均日照時間数 2,341 時間は県下でも大きく、年平均風速が 2m 以下で北東からの風が多い。

災害事例 地震

- 1978 年 11 月 23 日 (昭和 53 年) 伊豆半島東岸の地震 M=4.9
稲取・入谷地区で屋根瓦の落下、石垣の崩壊、墓石の転倒、道路の小破などがあつた。
- 1978 年 1 月 14 日 (昭和 53 年) 伊豆大島近海地震 M=7.0
被害は死者 9 人、負傷者 109 人、住家全壊 56 戸、半壊 460 戸、公共建物 6 箇所、文教施設 14 箇所、病院 25 箇所、道路 375 箇所、河川 18 箇所、港湾施設 13 箇所、水道 78 箇所、清掃施設 1 箇所、崖崩れ 57 箇所、鉄道 12 箇所、通信施設 330 箇所に及んだ。稲取・大峯山断層を生じ、それを横切る伊豆急稲取トンネルにくいちがいを生じた。
- 1974 年 5 月 9 日 (昭和 49 年) 伊豆半島沖地震 M=6.9
一部損壊 17 戸。山(崖)崩れ 18 箇所などの被害があつたが山崩れが目立った。
- 1944 年 12 月 7 日 (昭和 19 年) 東南海地震 M=7.9
県中・西部での被害が大きかったが、当地では震度 4 程度で、被害もなかった。
- 1934 年 3 月 21 日 (昭和 9 年) M=5.5
白田で墓石が転倒した程度。天城山付近の局地地震。
- 1930 年 11 月 26 日 (昭和 5 年) 北伊豆地震 M=7.3
丹那断層を生じた地震で、伊豆半島北部を中心に被害が大きかった。当地では、城東村で死者 5 人、住家は全潰 1 戸、荒廃林地 1 町歩に達した。
- 1923 年 9 月 1 日 (大正 12 年) 関東地震 M=7.9
東京・横浜を潰滅させた大地震で、当地稲取町で家屋全壊 15 戸(1.4%)を生じた。また 9 月 10 日の余震でも道路破損などの小被害があつた。

災害事例 津波

- 1923年9月1日（大正12年）関東地震津波
津波の高さは、稲取で3～6m、その他、大川、北川で約4m、熱川で約4.5m、片瀬で約5m、白田で3.5m程度であった。稲取では19戸の流出家屋を生じた。
- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震津波
津波の高さは稲取で5.4m、白田で3m程度であった。

災害事例 台風

- 1988年9月15日（昭和63年）台風18号
伊豆東海岸を中心に大時化となった。東伊豆町ではパトロール中の漁協関係者が高波にさらわれ、東伊豆町の沿岸のホテルが高波により被害を受けた。死者1人、負傷者9人、高波による浸水13棟。